

NUTEC Japan

鳩谷和春代表に聞く、高性能オイルの開発に秘められた思い。

今回は趣向を変えて、「なぜ、NUTECは高性能なのか?」、「なぜ、それが生まれたのか?」という部分にスポットを当ててみたい。お話を伺ったのは、NUTEC JAPAN代表の鳩谷和春氏。

神藤 宏●文 text by Hiroshi Kando
森山 俊一●写真 photographs by Toshikazu Moriyama
ニューテックジャパン●協力 cooperation by NUTEC JAPAN ☎045-929-1610

NUTEC 鳩谷和春

トヨタ2000GTがスピードトライアルをしていた頃に某国産自動車メーカーのレース部門へ入社。その後レーシングエンジニアとして、多くのレーシングカーを設計開発。グループA、WRC、グループB、IMSAなどに数々のマシンを持ち込み、グループCではWSCやル・マン24時間レースにも参戦した。現場の総責任者としてサーキットで才能をふるった人物である。レースエンジニア時代に培った人脈からNUTECと関わりを持つようになったが、99年に、正式にNUTECに参画し、現在は開発キーマンとして活躍中。



「私たちはフランスメーカー時代から、共同で油脂開発をしていたので、仲が良く、それでいろいろ協力していたという付き合いですね。」

「そうなんです。鳩谷さんはどんなクルマを造っていたんですか?」

鳩谷「グループA、グループB、グループCでル・マンにも行きました。92年は惜しいレースでしたね。」

「うーん、本当にエンジンの表裏を知り尽くした人がNUTECを造っていたとは!」

鳩谷「99年かな本格的にNUTECに参加したのは、彼らが独立して普通の良いオイルを造っていた時に、「オイルそんなことやったら、他と同じだぞ」といって尻を叩いてただけだったんだけど……。」

「いつの間にか?」

鳩谷「そうですね(笑)。こうして、高性能オイルNC・80が完成した。精製を重ね、極限までベースオイルの分子を小さくすることで、オイルに求められる性能のほとんどをベースオイルだけでカバーしてしまう。現在では「添加剤」として販売されているが、もともとはレース用の『エンジンオイル』で、普通のエンジンオイルとしては使用できないが、NC・80はそれだけでエンジンオイルとして高性能を発揮するものであるという。」

「レース用エンジンオイルとして開発されたNC・80のテクノロジーが現在の製品にリンクしてくるわけですね。でもコンプブリストなどは、あま

ら。そこで、より良い……というよりは、違う角度から見たオイルを造ろうという結論になったわけです。」

NUTECのオイルも、開発当初は他の高性能オイルと同じく、一般に使用されている化学合成油であるPAO(ポリ・アルファ・オレフィン)や鉱物油をベースに、ポリマー、モノマーといった添加剤をブレンドさせたものであった。しかしPAOはフリクシヨンが高く、それを緩和するための添加剤は高温に弱い。耐熱性や極限での性能を考えたとき、ベースオイルに添加剤の持つ性能をすべて入れ込んでしまえば添加剤は最小限の使用で済み、結果として、潤滑性、密封性、極圧性を確保したまま温度による劣化が非常に少なく、熱の影響が少なくなる酸化耐久性、防錆能力にも秀でたオイルとなる。この考えが現在のNUTECオイルの始まりだったのである。

「それでオイルの分子が細かいという特長あるものになったわけですね。そうすると、新たな技術や設備が必要になりますよね。それを実現したNUTECとは、いったいどの会社なんですか?」

鳩谷「現在はイギリスに本社がありますが、最初はフランスでした。97年だったかな、立ち上げたのは、フランスの石油メーカーでレース用オイルの開発をやっていた人たちですね。F1やWSCなんかをやっていたんですよ。」

「その頃は鳩谷さんも加わっていたのですか?」

鳩谷「その頃は某国産メーカーのレース部門の開発チーフエンジニアという立場でした。立ち上げメンバーの人

これまで行なってきたROSSOスペシャルアイテムテストでは、いずれも驚くべき結果を残してきたNUTEC、インターセプターですが、なぜ、NUTECの製品は高性能なのでしょうか?」

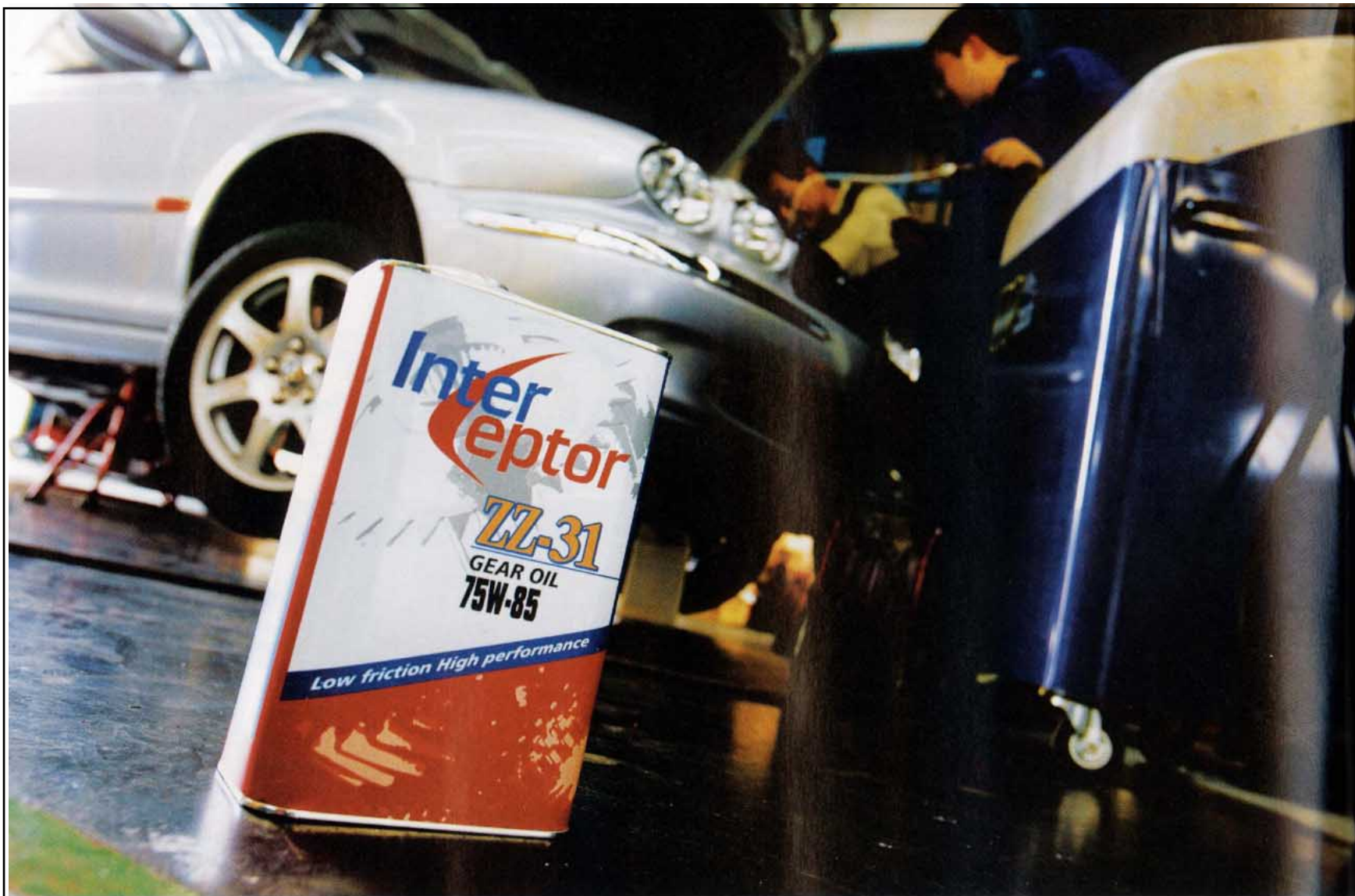
鳩谷代表(以下鳩谷)「我々のオイル造りの基本スタンスとして『オイルはエンジンやシャシーの構成部品のひとつ』として捉えることから始まっています。車両の持つポテンシャルをトータルで向上させるためには、すべてのパーツがバランス良く、適正な性能を持ったものでないといけない。オイルも当然、エンジンなどのパーツということになりません。スタート地点がまず違うということでしょうかね。」

なるほど、しかし他のオイルメーカーは、そうではないのですか?」

鳩谷「他では、まずオイルありきですね。新しいものにしてもまず新しいオイルに関する技術が完成し、それを使ってできたオイルを自動車メーカーやエンジンメーカーに使用してもらって、いい悪いを決める。我々は逆に、エンジンパワーはこれくらいで、どの位の過酷な条件下で、どれだけ使用するかというのをきめて、それに対してオイルに求められる機能は何か?ということを考えます。そこからオイル開発を始めています。」

「それでオイルの分子が小さいというNUTEC独自のテクノロジーが登場したわけですね。」

鳩谷「実は我々も最初は普通に『良いオイル』から始まっていたんですけど、これがなかなか思うような結果がでない。良いだけなら他と同じですか



レーシングテクノロジーから誕生した。

NUTEC/Inter Ceptor
スペシャルケミカル



NUTEC NC-40

基本的にはレース用オイルだが、一般車両用として使用できるロングライフ性も持っている。極薄で強力な油膜を形成する。



NUTEC NC-70

エステルを主成分にした合成処方の高性能ギヤオイル。フリクション、耐熱温度とも、モリブデンやテフロンを上まわる。



InterCeptor ZZ-01

NUTECの技術を受け継ぎながら一般車&ライトチューニング車向けに開発されたエンジンオイル。低価格なのが魅力。



InterCeptor ZZ-31

低フリクションと高伝達効率を両立した高性能ATフルード。トランスミッションオイル、J/Vアステイルなどとして使える。

NUTEC
X
JGTC



03年のJGTCでクラス優勝を飾った坂東レーシングのセリカにもNUTECのオイルは採用されている。レースで使われるオイルは、専用開発品ではなく、なんと市販品なのだ！

ができるだろう。

その他、大きくアナウンスはされないが、他の製品とは違う、ひとつ上の性能を持ったものをリリースしていきたい、という鳩谷代表の考えに基づいて既存の製品に関しても、一定期間ごとに常にアップグレードが行なわれているのだ。そんなニューテック&インターセプターのオイル&ケミカル。一度使えば、確実に違いを体感することが

「今後の展開を教えてください。」
鳩谷「現在ワンメイクレースやスーパー耐久レースで使用して好結果を得ている、NC-40、41、50、51、52の市販品のバージョンアップを考えています。」

りレースとは関係なさそうですが。鳩谷「オイルをやっているといろいろな要求がくるのですが、「これはできないよね」とかいわれると、つい意地になって造ってしまう。でも今までの車両開発やNUTECの開発にあたっての経験から、いろいろな技術や素材が得られまして、そのあたりからの応用がかなり役にたっています。」